

あかぎの響通信

NO.4



知的障害者通所授産施設 なかま

富士見村障害者デイサービスセンター

つゆ草クラブ

サービスステーションつゆくさ

ヘルパーステーションつゆくさ

発行：社会福祉法人 あかぎの響

〒371 0115 群馬県勢多郡富士見村小沢117-6

TEL:027-288-1867 FAX:027-288-1967

e-mail : akagi-no-hibiki@a-hibiki-a06.lunch-box.jp

発刊によせて

年度末をむかえ、皆様方ご多忙の事と存じます。授産施設なかまと富士見村障害者デイサービスセンターが、平成18年4月1日開所以来2周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、皆様のご協力、ご支援の賜と心から感謝申し上げます。

障害者自立支援法の施行を受けて、平成20年度は、平成21年度4月1日を新体制移行への事業所として、調査研究を重ね、利用する皆様方への説明、話し合いを進めてこの1年で社会福祉法人あかぎの響の進むべき経営の方向を定めて行きたいと思っております。どうぞご理解、ご協力をお願い致します。

理事長 下田こめ

施設では、今日も「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」「こんにちは」と明るく元気な声が響きます。昼時には、『季節の野菜や行事を取り入れた新商品のパン』と『焼きたてパン』、『野菜』を持って、訪問販売に出掛けます。

「美味しいと聞いていたけど、勤めでなかなか買いに来られなかった。」と村の健診の帰りにパンをお買いあげ頂き、満足そうな笑顔のお客様、パンを買いに来ながらアルミ缶をそっと届けてくださる地域の方々、また、「ブロッコリーとても美味しかったよ。」と声をかけて頂いたり、夕方の村内小中学校の訪問販売では先生方がパンを楽しみに待ってくださいます。

利用者の「いらっしゃいませ」とお客様を迎える輝く笑顔と、農業や請負作業に一生懸命取り組む姿に、自信と働く喜びを感じ取るこの出来た1年でした。

今後も、新事業体系への移行や工賃倍増に向け地域との共生と連携を図り、利用者が豊かな人生を歩む一助となるよう職員一同サービスの向上に努める所存です。ご理解を頂きましてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

施設長 柳井元子

通所授産施設なかま

農業班

冬の寒いこの時期ですが、農作業班では請負作業が本格的に始動しており日々忙しい作業を頑張っています。また、農業とアルミ缶回収も行っています。請負作業の内容はプラスチックのフォークの袋詰めとシーラー止めが中心で、衛生面を配慮した作業ですが利用者はとても集中して取り組んでいます。新しい職員も増え職員体制も安定しつつあるので、より一層良いサービスを提供していきたいと思えます。



フォークの袋詰め作業の様子



ベーカリーの新品！

ベーカリー班

現在、ベーカリー班では季節に応じた商品作りをしています。2月はバレンタインデーがあったのでハート型のクッキーを作りました。クッキーは生地作りから始め、成形や袋詰めも利用者が行いました。又、もうじき春なので桜の花を生地に練り込んだパンやお菓子の製作をすすめているところです。これからも、季節に応じた「旬」な商品を提供していきたいと思っております。

富士見村障害者デイサービスセンター

デイサービスでは、それぞれの利用者さんの身体状況に合わせた体操・散歩・機具を使用した機能訓練を、現在も継続して実施しています。また、それを1日の最初の活動に設定しており、毎日の健康状態を把握する大切な時間にもなっています。最近では、利用者さん自身も1日の流れを理解されている様子が表情や言動から分かり、習慣が徐々に身に付いてきているようです。

季節の感じられる活動を心掛けており、利用者さんがちぎった色紙や、ペンや筆を使用して描いた作品を、制作活動に積極的に取り入れ、室内の雰囲気からも日々の移り変わりを実感して頂けるよう心掛けています。また、外出行事を1ヶ月に1回程度実施しており、施設見学で沢山の人や物に触れて頂く機会を重視しております。利用者さんも外出する日は、とても機嫌が良く毎回ニコニコ参加出来ており、豊かな刺激を受けている様子が見られます。



施設見学「もくせい」にて

つゆ草クラブ

つゆ草クラブでは、10月から火・水・木・金曜日、日替わりで4人の学生さん(女性3人、男性1人)が保育に入っています。1日2、3時間というわずかな時間ですが、子ども達と係わって遊ぶことによって、職員も子ども達の隠れていた一面を発見することが出来ました。

冬至前は日の入りが早く、散歩に出掛けられるところが、街灯のある場所に限られてしまいます。その中で、大胡総合運動場や関根の体育センターには、芝生の土手があり、街灯の下、豪快に又、あまりにも楽しそうに芝すべりをするので、気付くと衣服が芝だらけになってしまいました。

室内遊びでは、何となく子どもと指導員とのキャッチボールから始まったボール遊びが野球ごっこに変わり、遊びに加わる子ども達も増えてきました。特に2月は、一人でも多くの子どもが野球ごっこに参加出来るように、みんなを遊びに誘っています。安心して下さい。スポンジタイプのボールにプラスチックの上にスポンジが覆ってあるバット、空き箱のホームベースです。

野球ごっこでは最初、バットを手渡されどうしていいか解らず、ゴミ箱に捨ててしまったり、床やカーテンを叩いていた子ども、指導員や高校生のお兄さんの投げるボールを、指導員と一緒にバットを構えボールを打ちます。ボールが当たると(アッ、これで自分の出番が終わった!)と思う子もいるでしょうが、ほとんどの子が満足そうにしています。一人でバットを構えて打てる子は、打つと「ホームラン!」と言いながら部屋の中を一周まわっています。もうすぐ春、青空の下を“ホームラン”と叫びながら、思いっきり走り回りたいです。

サービスステーションつゆくさ ・ ヘルパーステーションつゆくさ

生活支援センター内には、サービスステーションとヘルパーステーションの事務所とサービスステーションを利用される方が日常生活に近い環境で過ごすことが出来るよう和室・洋室・プレイルーム合わせて3部屋、キッチン、お風呂が完備されています。その1室にスヌーズレンの設備がある部屋があります。

スヌーズレンの部屋は、真っ暗な部屋の中に様々な色の照明が柔らかく、優しく色々な感覚を刺激する機械をそらえた空間になっていて、利用者の方だけでなく、介護者も一緒に雰囲気を楽しむ事が出来ます。この空間で心地よい時間を過ごすことを好んでいる方がたくさんいます。



寄付金品 報告

ご寄付をいただきました皆様、ありがとうございました。

(株)大同ライフサービス様、サンウェブ工業(株)様、小川東邦(株)様、リビング産業(株)様
(株)須江薬品様、(株)群電様、MSSステンレスセンター(株)様、キリンビバレッジ(株)様
三国コカコーラボトリング(株)様、東京コカコーラボトリング(株)様、富士見村赤十字奉仕団様